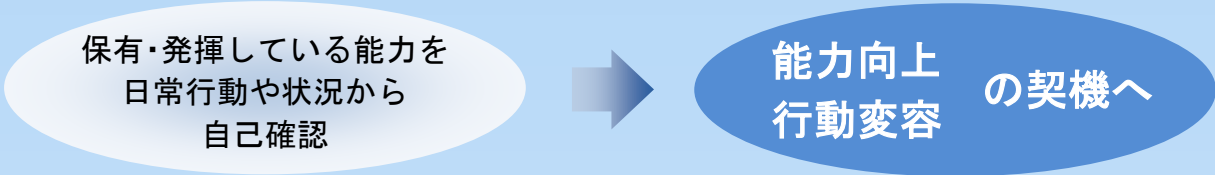


能力自己診断プログラム



能力自己診断プログラムのご案内

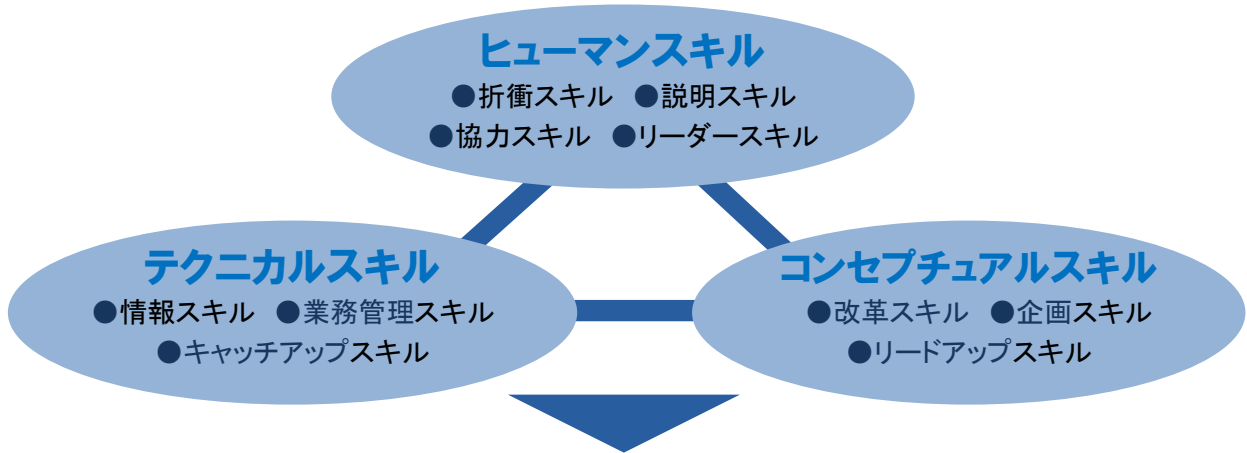
職員数や従業員数が減少傾向にある中、外部環境への変化に前向きに対処することが今まで以上に求められています。こういった状況で欠かせないもの、それは職員（従業員）一人ひとりが保有する能力を発揮して日々の業務を行うことです。しかしながら、自分が保有・発揮している能力は何かということは判断しにくいものです。本プログラムはこの「保有・発揮している能力は何か？」という点について診断し、分かりやすく分析・解説することで自立的な能力向上・発揮を可能にします。

本プログラムの 特長

- ◆ 日常における職務行動について50の質問に答えることで、保有・発揮する能力を確認できます。
- ◆ 能力の現状について客観的に理解できます。また不足する能力を客観的に理解できます。
- ◆ クラウド型システムによる診断のため、システム開発不要で低廉なコストで実施できます。
- ◆ 組織全体での能力保有・発揮状況もわかります(オプション)
- ◆ 職種別や年代別などの状況も確認できます(オプション)

診断プログラム

パソコンを使って質問に答えることで 10 スキルについてあなたの能力特性を読み解きます



「ヒューマンスキル」「テクニカルスキル」「コンセプチュアルスキル」の3つの観点別に10のスキルについて保有・発揮している能力に関する情報を提供します。

自分の保有・発揮している能力の状況と能力特性について理解できるので、今後の能力向上・行動変容が可能になるほか、自分の能力を意識した業務やOJTへの取り組み、そして不十分な能力を高めるための意識的な研修受講等が可能となります。

NOMA 能力自己診断プログラム

本プログラムでの能力領域と領域別の能力特性

本プログラムはカツモデルに照らして能力を「テクニカルスキル」「ヒューマンスキル」「コンセプチュアルスキル」の3つの領域(*)に分類し、それを本会独自の10スキルについて個別に診断します。3つのスキルの内容は以下の通りです。

- ※【テクニカルスキル】…職務遂行に必要となる専門性や業務能力特性を示します。このスキルが高い人は一般的に業務遂行の力が高いといえます。
- 【ヒューマンスキル】…コミュニケーションを中心とした他者との関係構築特性を示します。これらのスキルが高い人は一般的に他者との関係構築の力が高いといえます。
- 【コンセプチュアルスキル】…職務遂行に必要な分析的な能力や構造化・統合化の能力、再構成についての特性を示します。これらのスキルが高い人は一般的に新規案件に直面してもやりきる力が高いといえます。

■カツモデルによる求められるスキル内容とスキル別構成比

役割は高位 →

コンセプチュアルスキル

ヒューマンスキル

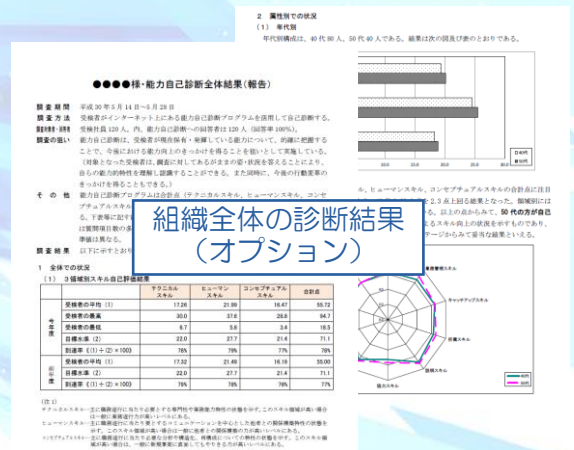
テクニカルスキル

役割は低位 →

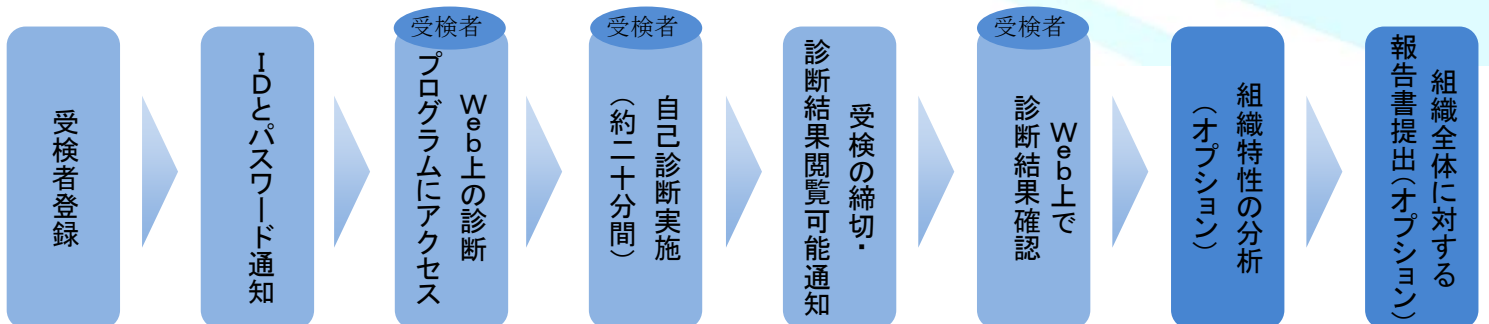
能力自己診断の主な活用例

- ① 標準と自分の結果を比較することで今後の能力向上や行動を考えるための有益な情報が得られます。
- ② 研修受講前の自己理解と研修終了後の変化を実感できます。
- ③ オプションにて行う組織特性の分析等の結果を踏まえれば、組織全体を見回したときの人材マップが描けます。また人事基礎データとして使うことによって、組織全般の課題解決や人材育成方針の参考データとすることができます。

<診断結果イメージ>



能力自己診断の流れ



利用料金

詳細については下記のお問合せ先までご確認ください。

お問合せ先

一般社団法人日本経営協会 経営研究センター

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 3-11-8 TEL 03-3403-1676 FAX 03-3403-1710 Eメール:center@noma.or.jp
http://www.noma.or.jp/